

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890600145
法人名	株式会社 ジェイコム
事業所名	グループホーム小松の里
所在地	愛媛県西条市小松町妙口甲1番地1
自己評価作成日	平成22年12月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年1月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

☆合同行事の取り組み、春は＝開設記念日&ひな祭り・花見、夏は＝ソメーン流し・カメラ夏祭り
 秋は＝敬老会・カメラ運動会・他施設へ菊見会、冬は＝クリスマス会・もちつき、その他として慰問
 による歌謡ショーや踊り等、また近隣の中学校からの「小松タイム」や中学生の職場体験・ボランティ
 ア、高校生の職場体験、ヘルパーの実習受け入れ等がある。
 ☆個々のアルバムを作成している。
 ☆毎月、日常生活報告書の送付や毎20日の家族様との茶話会
 ☆月に1度は、外出&外食
 ☆2か月に1度の勉強会、2か月に1度の広報誌発行、2か月に1度の運営推進会議等

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営会社の理念を基にホーム独自の「心がけ」を、利用者支援の基本的な考え方としており、朝の申し
 送りの時に全員で復唱したり、名札にも記載しいつでも振り返りができるように工夫している。地元の中
 学生や地域住民との交流が盛んである。また、利用者や職員の友人がボランティアでコーラスや寸劇を
 披露してくれるなど、身近な人材が利用者の生活を共に支えてくれている。家族にも運営推進会議に出
 席してもらったり、茶話会を定期的に開催するなど家族との交流についても活発な取り組みがされてい
 る。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム 小松の里

(ユニット名) 東通り

記入者(管理者)

氏名 平塚 真由美 (津島 美由紀)

評価完了日 平成 22年 12月 1日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) ユニット内の目の届く所や名札の裏に記載している。また、ホーム独自の「温かく・さりげなく・気配り目くばり」を心がけとし、朝・夕の申し送り後に復唱職員全員が同じ気持ちで実践につなげている。</p> <p>(外部評価) 運営会社の理念を基にホーム独自の「心がけ」を全職員で作成し、利用者支援の基本的な考え方としている。また、実践するために、朝の申し送りの時に全員で復唱したり、名札にも記載しいつでも振り返りができるように工夫している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	<p>(自己評価) 近隣の中学校の体験学習や高校生の就業体験学習を受け入れている。又、中学校の運動会・文化祭や地域の夏祭りに参加したり広報誌を配布したりホーム独自のお祭りの案内状を近隣に配布し参加呼びかけしている。</p> <p>(外部評価) 中学生との交流が盛んで、おやつ作りや散歩など一緒に行っている。利用者の知人によるコーラスや寸劇、職員の知人によるハンドマッサージなど、身近な人材に関わってもらい利用者の楽しみに繋げている。また、地域の文化祭に参加したり、秋祭りではだんじりが来てくれるなど地域の方との交流も広く行われている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 2カ月に1回、ホーム近隣道のごみ拾いや新しくできたコンビニ店に施設や認知症利用者である事の説明をし、徘徊時の連絡や行事案内の貼り出し等の協力を得ている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議に出席して下さっている自治会長さんや他者の方からの情報で、小松町の防災火災訓練に参加したり、地域の公民館・文化祭にも参加した。	
			(外部評価) 会議には利用者や家族の代表者、自治会長、地域包括支援センター職員などが参加し、議題に応じて消防署の職員が参加している。議事録は話し合われた内容がわかりやく記載されている。地域との拡がりを進めていくためにも効果的な会議となっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 月に1度、介護相談員の方達の来訪があったり、介護サービス向上連絡会にホーム長や主任が参加、運営推進会議にも包括支援センターの方の出席もあり協力関係を築けるよう取り組んでいる。	
			(外部評価) 課題解決のため市の担当者といつでも相談したり、情報交換をすることができる関係が構築されている。また、市が主催するケアサービス向上のための講演や研修会に参加し、情報収集や自己研鑽を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 研修にも参加し、身体拘束をしないケアは理解している。居室入口に鍵なく、ユニットや・玄関にも鍵はしていない。 ※玄関は朝7時～夜9時まで施錠していない。	
			(外部評価) 身体拘束の外部研修を受講したり、ホーム内での研修を継続して行い身体拘束とは何かを正しく理解している。声かけについても言葉での拘束にならないよう全職員で注意し合うなど、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修にも参加し学ぶ機会を持って取り組んでいるが時として、言葉の荒いなどところが見える時もある。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修にも参加、全員が理解しているとは言い難いが資料・パンフレット等は、玄関ロビーに置き、必要性を持つ方には活用出来る様に支援している。ホームにも活用している方がいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約の際に十分な説明と納得してもらって入居してもらっている。その後も疑問や不安ある時は、都度都度説明・納得していただいている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関ロビーの入口に意見箱を設置、相談窓口としホーム長が対応、また、茶話会と名して家族様との交流を持ち意見交換している。運営推進会議にも家族様の代表者・利用者にも参加していただき意見が聞ける様にしている。1度インターネットに書き込みがありユニット会で話し合いケアの再確認した。 (外部評価) 毎月20日に家族との交流を目的に茶話会を開催しており、その中で活発な意見交換が行われている。家族からの提案で、猪鍋会を実施するなど交流も盛んになっている。苦情の対応については、ユニット会などで話し合うなど速やかになされている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) いつでも意見や提案を聞いて貰える体制である。良い提案は採用し、ケアや業務に取り入れて貰っている。</p> <p>(外部評価) 管理者は日頃から職員に声をかけ、意見や要望を聞き取るように心がけている。職員も管理者に意見を出しやすく良好な関係が構築されている。また、資格取得のための時間や経費なども可能な限り調整し、意欲の向上や質の確保に繋げている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 全職員は年1回、上・下期に分けて目標設定、自己評価・面談があり各自が向上心を持って働ける様に努めてくれている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 入職年数や各自に合った研修を受けさせてくれて各自が受けさせてくれる努力してくれている。また、最近は関連グループでしているヘルパー講習を勤務内の時間で受けさせて貰える体制である。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 同業施設や関連グループとの広報誌のやり取り・交流、また研修等で知り合いになった友とのメール交換をしている者もいると聞く。昨年・今年と続けて相互研修に参加しサービスの向上に繋げている。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 入所前に面談し本人様の気持ちを尊重、受け止める努力している。入所後は、不安をやわらげ、より良い関係が持てる様に傾聴を心掛けている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前に困っていた事や不安を傾聴し、面接時は必ず最近の様子や要望を気持ち良い笑顔で伝えたり聴く様に心がけている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 申込みや相談に見えられた時点で、話をよく聴き他のサービス利用も含めた対応に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 家事全般の仕事を一緒にしたり、レクリエーションや談話をする生活の場で、時には衝突もしながら支えあう関係に努めている。	
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 月1回の日常生活の報告や全員とはいかないが、茶話会や行事の案内、電話や面会時に分からない所を尋ねたり報告し共に支えあえる努力している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人様の馴染みの方の訪問は拒まず、どしどし来てくれる事を望んでいる。訪ねて来て下さった時は、落ち着いて過ごせれるように心掛けている。 馴染みの場所にも度々は行けないが努力はしている。中には、以前の職業・先生仲間の友達慰問等もあった。 (外部評価) 馴染みの人や場所を把握するために、利用者の小さな要望を聞き逃すことなく取り組んでいる。外出行事を兼ねて老人ホームに入所中の姉に会いに行くなど、利用者の希望を叶えるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 気の合った者同士の席にしたり、自由に好きな席に座る事が出来るよう4人テーブルを3人になっている。また、どなた共と交流が持てる様にユニット行事を取り入れ孤立する事がない様に支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所し病院に入院された方の面会に行ったりしているが他施設に移られた方の面会は遠い事もあり出来ていない。家族様からの相談にはホーム長が受けている。中には、家族様が、ホームに遊びに来て下さる方もいる。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 入所時に家族様より意向・希望・思いを聞き把握に努めている。また、意思疎通の出来る方には1対1の入浴時に聞いている。出来ない方には、表情や本人本位で考える様に努めている。 (外部評価) 利用者との日々のふれあいを大切にし、表情や言葉の変化などから思いを汲み取っている。利用者の思いはできる限り叶えることができるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所時に家族様や本人やケアマネさんより情報を聞きホームで生活して行く中の言葉から把握に努めているが・・・センター方式に入所時に記入しているがなかなか活用までいっていない。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の関わりで観察したり生活記録やオンリーワンメモ・気づきノートで把握に努めている。センター方式の活用も心掛けたい。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 月1回、茶話会に参加していただいた家族様には現状の報告し要望や意見を聞き作成するようにしている。また、不参加の家族様には、3カ月ごとの介護計画見直しの折に要望や意見記入してもらえる様をお願いしている。</p> <p>(外部評価) 茶話会や面会時などの機会をとらえて意向を聞き取ったり、意向を直筆で記入してもらうなど家族にしっかり関わってもらっている。計画や実施状況は、分かりやすい様式で記録されており、モニタリングの根拠となっている。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 個々の生活記録・ケア行動チェック表・熱計用・オンリーワンメモ・気づきノートを活用しユニット会で話し合い見直しに活かしている。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) その場に応じた支援をできる様に心がけている。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 中学生のボランティア清掃・ごみ拾い・消防署員、指導のもと消防避難訓練・椿交流館の足湯やマッサージ室利用やプラネタリウム等豊かに暮らしを楽しむ支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 入所前からのかかりつけの受診や往診の支援してい る。特に指定のない方は、関連病院の往診が週1回 ある。</p> <p>(外部評価) 利用前からのかかりつけ医の受診や、利用者や家族が 希望する医療機関での受診を支援している。週1回の 協力病院の往診や年1回の健康診断も実施しており、 結果は家族と共有している。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) ホーム長が看護師であり、利用者の容態変化時は報 告し適切な処置や受診を受けられる支援している。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院時は、入院に至った経過をサマリーにて情報を 伝え口頭でも報告している。最近、入院した方がい るが、往診時に情報聞いている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) ターミナルケアは実施していないが、本人・家族様 主治医・ホーム長と十分な話し合いを持ち方針を決 めている。出来る限りホームで過ごしていただける 努力はしている。</p> <p>(外部評価) ホームでは医療行為ができないため、方針としては看 取りは行わないとしている。最終的には病院に入院と なったが、終末期に近い状態の事例を以前に1件経験 している。利用者の状態に応じて家族との話し合いを 密にしている。</p>	<p>利用者の安心で安定した生活を継続的に支え家族の意 向を尊重しつつ、ホームとしてできることできないこ とを盛り込んだ指針づくりや、現場で対応する職員の 資質向上のための研修、マニュアルづくりなどについ て検討がされることを期待したい。</p>

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 2年に1度、消防署の救命救急講習に参加している。 急変や応急処置のマニュアルを作成しているが全職員が活かせるかは未定である。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) この12月にスプリンクラーが設置した。年2回、消防避難訓練実施している。その1回は、消防署員の指導のもと行っている。新しい職員が何人かいるので避難する場所の場把握が出来ていない者もいる。地域との協力体制とまでは行っていないが自治会長さん等運営推進会議に出席していただいている方の協力は得ている。 (外部評価) 年2回の避難訓練を夜間などを想定して行い、1回は消防署の指導を得て実施している。運営推進会議の中でも話し合いを行ったり、実際に参加してもらいホームの取り組みを見てもらっている。また、小松地区の防災訓練にも参加している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) プライバシーをそこねる声かけ時には、注意したり、声のトーンを下げた対応をする様に注意しているが、暴力行為があったり、酷い言葉が返って来た時は感情が先立ち言葉掛けが強くなってしまう時がある。 (外部評価) 利用者の尊厳を大切に声かけや態度で対応できるよう気を付けている。利用者一人ひとりの呼び方は、事前に確認している。また、トイレ誘導時の声かけや入室時のノックも配慮し、気になることについては職員間で注意し合い、よりよいケアが提供できるよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 注意深く表情や反応を見て希望や思いを自分で選択出来る様な言葉掛けをしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) その人・その人に沿った支援をして行きたいが時と場合によっては業務優先の時もある。ホームの心掛けの気持ちをいつも忘れず、その人の希望にそって支援できるように努めたい。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) ご自分で選べない方は支援しているが、嫌がる服は避けている。行事には、化粧の支援する事もある。2カ月に1回、近隣の美容院に来てもらっている。男性は、理容院へ出かけている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 下ごしらえをして貰ったり、食器洗浄を一緒にしている。嫌いな物は、代用に変えたり趣向を凝らし食べてもらえる工夫や彩りを工夫したり、利用者の咀嚼に合わせた対応している。	
			(外部評価) 利用者に満足してもらえるメニューになるように、各ユニットの栄養委員が献立を作成している。食器洗いや食材切り、下膳などを職員が見守りしながら、無理のないよう利用者にしてもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 10日ごとに献立メニューを立て各自の水分・御飯副食の摂取量を記録に残している。体調状態に応じた対応している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 朝はしていないが、昼・夕食前には口腔体操を実施している。食後は、歯磨きを支援、拒否する方にはうがいだけでも促している。就寝前には、義歯の取りずし義歯洗浄液につけている。又、日中は歯ブラシの日光消毒している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) 排泄表を活用しタイミングよく、個々に応じた声かけや誘導を促しているが支援が難しい時が多々ある。</p> <p>(外部評価) 職員は一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけなどの対応をしている。失禁時にはシャワーで洗ったり、温かいタオルで拭くなど清潔を保つようにしている。夜間は安眠を考慮しながら、利用者の状態に応じた方法で排泄介助を行っている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 毎日、朝食時はセンナ茶で対応している。なかなか排便のない方には、トイレ時にお腹のマッサージやウォシュレットで刺激与え促したり、日中にもセンナ茶で対応している。また、運動の声掛けや繊維質の食べ物を促している。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 毎日、風呂はあるが拒否する方には促し方を工夫している。</p> <p>(外部評価) ゆったりとした雰囲気の中で、職員と会話を楽しみながら入浴できるよう努めている。入浴を嫌がる利用者に対しては声かけを工夫したり、時間を変えるなどの対応をして、気持ちよく入浴してもらえるよう取り組んでいる。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) 夜間の睡眠状態を把握し眠れていない方には、日中居室にて休んでもらう声掛け、またねむれない方には話やテレビ等見ながらリビングで眠気がくるまで対応、車椅子の方には、日中少しの時間でも休んでもらっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 全員が薬の目的・用途の理解しているとは言い難いが、個々の処方箋をファイルにしているので、いつでも確認することが出来る。また、服薬時は本人確認と飲み残し忘れがないか常に注意と見守りしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 入居前により好きだったことをホームでもして貰ったり、個々に役割を持ってもらい出来る事をしてもらっている。おやつ作りやレクリエーション・散歩等で気分転換の支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ユニット全員で、月に1度は外出を兼ねて外食をするようにしている。又、その時々で買い物・近隣の行事ごとの参加も心掛けている。	
			(外部評価) 日常的に中庭に出ての日光浴をしたり、散歩を兼ねて近くのコンビニや食材の買い出しにスーパーに行っている。気候のいい時期には、ホームのワゴン車でお花見やドライブにも出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご本人で管理所持している人は、2・3人程度であるが実際に買い物しご本人が支払されるのは1人ぐ来である。あとの方は、ホーム立替にて支払っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) いつでも利用者から電話の訴えがあれば使用してもらっている。また、手紙のやり取りまでは行かないが年賀状に一言でも書いていただき出している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ユニット入口には、利用者の写真を掲示し、テレビやCDの音量に気を付け、光のきつい時は、レースのカーテンや室温にも気を付け換気している。毎月、手作りカレンダーを貼ったり、玄関には季節の飾り物をしている。	
			(外部評価) 利用者が心地良く過ごせるよう、テーブルや席の配置を工夫している。車いすを使用する利用者が動きやすいように、不要な物は置かないようにしている。加湿器や空気清浄機を導入し湿度や室温の調整もされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 玄関ロビー・ローカ・リビングにはソファや椅子を設置、また、ウッドデッキや中庭にもベンチを設置し思い思いの場所で一人になったり気の合った者同士で過ごせれる工夫している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居時に、家族様には使い慣れた物をと伝えているが軽量の引き出し衣装ケースを持って来ている方が多いが中には、使い慣れたタンス・テーブルを持って来ている方もいる。また、写真などを貼ったり飾ったりしている。	
			(外部評価) 各居室には洗面台やクローゼット、ベッドが設置されている。寝具はリースを活用し清潔が確保されている。利用者の友人から頂いた手作り品を大切に飾ったり、写真や仏壇を置くなど、一人ひとりにあった落ち着くことのできる居室づくりがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレは分かりやすく表示、居室には自分の部屋だとわかる様に写真入り名札をつけている。又、ローカには手すりを設置、バリアフリーで安全に動きやすい造りになっている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890600145
法人名	株式会社ジェイコム
事業所名	グループホーム小松の里
所在地	愛媛県西条市小松町妙口甲1番地1
自己評価作成日	平成 22年 12月 1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年1月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

喜怒哀楽を共に共感できる日々接している。
職員が明るく接することで、利用者の表情も明るくなりいい関係作りができています。
職員と利用者は、月に一度は共に外出しておいしい物を食べたり、季節の花々をみに行ったりして楽しんでいる。
人生の先輩として、話を良く聞き時には相談にも乗ってもらっている。
たまに口げんかをする事もあるが、すぐに打ち解け合い更にはいい関係づくりができています。
家族とのつながりを大事に考え、家族会を毎月開催している。
毎月の様子を、日常生活報告書にて家族に送付して報告している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営会社の理念を基にホーム独自の「心がけ」を、利用者支援の基本的な考え方としており、朝の申し送りの時に全員で復唱したり、名札にも記載いつでも振り返りができるように工夫している。地元の中学生や地域住民との交流が盛んである。また、利用者や職員の友人がボランティアでコーラスや寸劇を披露してくれるなど、身近な人材が利用者の生活を共に支えてくれている。家族にも運営推進会議に出席してもらったり、茶話会を定期的に開催するなど家族との交流についても活発な取り組みがされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム 小松の里

(ユニット名) 西通り

記入者(管理者)

氏名 愛久澤 剛史 (津島 美由紀)

評価完了日 平成 22 年 12 月 1 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 「温かくさりげなく気配り目配り」という理念を掲げ朝夕の申し送りにて復唱し、共有している。また、名札の裏側に記載されていたり、目の付く所に掲示されており、いつでも理念を再確認出来る様にしている。	
			(外部評価) 運営会社の理念を基にホーム独自の「心がけ」を全職員で作成し、利用者支援の基本的な考え方としている。また、実践するために、朝の申し送りの時に全員で復唱したり、名札にも記載しいつでも振り返りができるように工夫している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	(自己評価) 近くの中学校との交流授業や、地域の文化祭、運動会の見学、また、自治会員として市の防災訓練に参加している。	
			(外部評価) 中学生との交流が盛んで、おやつ作りや散歩など一緒に行っている。利用者の知人によるコーラスや寸劇、職員の知人によるハンドマッサージなど、身近な人材に関わってもらい利用者の楽しみに繋げている。また、地域の文化祭に参加したり、秋祭りではだんじりが来てくれるなど地域の方との交流も広く行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 具体的な方策に至っておらず、実践出来ていない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月毎に運営推進会議を開催し、事業所の取り組みや意見、要望を積極的に聴いており、少しずつではあるが、サービスの向上に活かしている。	
			(外部評価) 会議には利用者や家族の代表者、自治会長、地域包括支援センター職員などが参加し、議題に応じて消防署の職員が参加している。議事録は話し合われた内容がわかりやく記載されている。地域との拡がりを進めていくためにも効果的な会議となっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 介護相談員の訪問や、運営推進会議に市の担当者が出席され、事業所の取組みを伝え協力関係を仰いでいる。また、広報誌を届けている。	
			(外部評価) 課題解決のため市の担当者といつでも相談したり、情報交換をすることができる関係が構築されている。また、市が主催するケアサービス向上のための講演や研修会に参加し、情報収集や自己研鑽を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 研修や勉強会にて知識を深めており、身体拘束をしないケアとは何か理解している。夜間、防犯の為施錠しているのみで普段はいつでも出入りできるようにしている。	
			(外部評価) 身体拘束の外部研修を受講したり、ホーム内での研修を継続して行い身体拘束とは何かを正しく理解している。声かけについても言葉での拘束にならないよう全職員で注意し合うなど、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 勉強会や研修にて学ぶ機会があり、理解出来ている。虐待により緊急性がある方の入居を優先したり、事業所として虐待防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修等で学ぶ機会があり、実際に制度を利用している方もおり、支援出来ている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約前より、利用について十分話し合い納得の上でのサービス利用となっている。改定の際はその都度家族に文書にて説明、理解を得ての利用を行っており、不安や疑問点においては、その都度解消に努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会の時に家族からの要望、意見を聞きだせるよう常に働きかけているし、玄関に意見箱を設置し意見、要望を表せるようにして運営に反映させている。 (外部評価) 毎月20日に家族との交流を目的に茶話会を開催しており、その中で活発な意見交換が行われている。家族からの提案で、猪鍋会を実施するなど交流も盛んになっている。苦情の対応については、ユニット会などで話し合うなど速やかになされている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ユニット会や勉強会時には、職員の意見要望を聴く機会を設け、解決出来ない事項は管理者に相談持ちかけしている。それらを運営に反映させている。 (外部評価) 管理者は日頃から職員に声をかけ、意見や要望を聞き取るように心がけている。職員も管理者に意見を出しやすく良好な関係が構築されている。また、資格取得のための時間や経費なども可能な限り調整し、意欲の向上や質の確保に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 年間の目標を各自が立てその評価と実績を把握し、向上心が持って働ける環境が出来ている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 管理者は、年間の研修計画に沿って職員に研修を受けてもらっている。職員各々のレベルにあった研修を受け、本人の希望する研修も受けれるように計画を立てており、働きながら無理の無いトレーニングを受けている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 各団体の研修の場や、相互研修に職員が参加して交流を深めており、ケアの質の向上に努めている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) サービス利用時だけでなく、利用前から家族を交えて本人とよく話し合い、より良い関係づくりに努めている。不安、要望があれば、解決の為にできる限りの事をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用前の面談の段階で本人を交えての、話を良く聞き困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾け関係づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 体調の変化に伴い、その人にあったサービスをその都度関係者と話し合い、家族とも話し合いながら対応に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 悲しくて涙を流される方には、傍で話を聞き、嬉しい時は共に喜び、喜怒哀楽を共有している。	
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の面会時には、生活の様子や報告だけでなく、家族の思いや要望、意見等少しでも聞きだせるよう、働きかけている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 要望があれば、可能な限り支援しているが、自己主張できる方が少ない為、支援出来ていない方が多い。 (外部評価) 馴染みの人や場所を把握するために、利用者の小さな要望を聞き逃すことなく取り組んでいる。外出行事を兼ねて老人ホームに入所中の姉に会いに行くなど、利用者の希望を叶えるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 仲の良い方同士は隣の席に座ってもらったりして過ごしてもらっている。他の利用者との関わりを望まれない方には、スタッフが話しかけたりして孤立しないよう支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス終了し入院している方などとは、たまにお見舞いに行く程度である。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 一人ひとりと時間をかけゆっくりと話し、意向の把握に努めている。困難な方の場合も表情や仕草から読み取る努力をしている。	
			(外部評価) 利用者との日々のふれあいを大切にし、表情や言葉の変化などから思いを汲み取っている。利用者の思いはできる限り叶えることができるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時の面談や、家族からの情報、関係者からの情報にて把握しており、入居後の情報もアセスメントして把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) その人その人に合った生活ペースをつかみ、出来る事、出来ない事の把握に努め、支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 毎月1度はチームスタッフによるケアカンファレンスを行い、課題とケアのあり方について見当しており、それ以外においても必要に応じて、その場にいるスタッフにてミニカンファレンスして、話し合っている。また、毎月家族会を開き家族からの意見を反映して介護計画の作成に反映している。</p> <p>(外部評価) 茶話会や面会時などの機会をとらえて意向を聞き取ったり、意向を直筆で記入してもらうなど家族にしっかり関わってもらっている。計画や実施状況は、分かりやすい様式で記録されており、モニタリングの根拠となっている。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 毎日の生活記録の記入、介護計画のモニタリング、評価を毎月実施しており、気づきノートの記入と報告を申し送り時に行い情報の共有に努めている。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) レベル低下により、他のサービスが必要になった場合は関係者の意見を聞き、出来る範囲での支援を行なっている。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 近くの中学校との交流授業での定期的な交流や、運動会や文化祭の招待を受け毎年見学に参加しており、恒例行事になっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) かかりつけ医を尊重した上で往診の協力を得ている が、往診や即対応の難しい病院の場合、母体に協力し てもらっている。毎週1度の往診と、体調が悪くなっ た方や、気になる方の相談を都度受けており、適切な 支援を受けれるようになっている。</p> <p>(外部評価) 利用前からのかかりつけ医の受診や、利用者や家族が 希望する医療機関での受診を支援している。週1回の 協力病院の往診や年1回の健康診断も実施しており、 結果は家族と共有している。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 体調に異変が生じた場合は、管理者が看護職員である ので、速やかに報告、相談し指示を仰いでいる。場合 によっては受診したり、かかりつけ医の指示を仰ぎ支 援できている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院時は、入院となった経緯をサマリーにて報告し、 入院後もその後の状態を情報交換し、早期に退院出来 る様支援している。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 重度化した方がおられる場合は、早い段階から家族を 交え、かかりつけ医、管理者、現場職員と十分に話し 合い方針を決めできることを実施している。</p> <p>(外部評価) ホームでは医療行為ができないため、方針としては看 取りは行わないとしている。最終的には病院に入院と なったが、終末期に近い状態の事例を以前に1件経験 している。利用者の状態に応じて家族との話し合いを 密にしている。</p>	<p>利用者の安心で安定した生活を継続的に支え家族の意 向を尊重しつつ、ホームとしてできることできないこ とを盛り込んだ指針づくりや、現場で対応する職員の 資質向上のための研修、マニュアルづくりなどについ て検討がされることを期待したい。</p>

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防署において、初期応急処置の講習をほぼ全職員が定期的を受けており、備えている。また、各研修にて知識を身につけており、実践力を養っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回の避難訓練を確実にを行い、消防署の指導と協力を得ている。また、地域の防災訓練にも参加し事業所が地域の一員として協力体制の構築ができつつある。今年の訓練では、簡易担架を使った実践訓練を行なった。 (外部評価) 年2回の避難訓練を夜間などを想定して行い、1回は消防署の指導を得て実施している。運営推進会議の中でも話し合いを行ったり、実際に参加してもらいホームの取り組みを見てもらっている。また、小松地区の防災訓練にも参加している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) トイレの声掛け時など小さい声で話しかけ、気遣いしてケアにあたっているが、時々声が荒くなったり、慣れ慣れしい言葉遣いになる事がある。 (外部評価) 利用者の尊厳を大切に声かけや態度で対応できるよう気を付けている。利用者一人ひとりの呼び方は、事前に確認している。また、トイレ誘導時の声かけや入室時のノックも配慮し、気になることについては職員間で注意し合い、よりよいケアが提供できるよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 思いや希望を表す事が困難な方に対しても、必ず一言掛けている。判断できない場合においても、表情や仕草から読み取る努力をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者の生活ペースを優先したケアに努めているが、時々、業務に追われ職員側の都合の良いようになっている場合がある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 外出時は、お化粧したりお気に入りの身だしなみで行かれる方もおり、出来ない方については、スタッフが支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 調理が得意な方には、職員と共に台所に入り、野菜を切ったりお米を研いだりしている。中にはこちらがお願いせずとも、自ら手伝ってくださる方もおり、支援できている。また、レベルの低下している方には食事形態を変えレベルに合った物を提供している。 (外部評価) 利用者に満足してもらえるメニューになるように、各ユニットの栄養委員が献立を作成している。食器洗いや食材切り、下膳などを職員が見守りしながら、無理のないよう利用者にしてもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 水分摂取が一日を通して分かるよう、チェック表にて記録している。糖尿病などカロリーのコントロールが必要な方は、食事量を減らしたりしながら調整している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアを行なっている。義歯の方は全員洗浄剤にて消毒を徹底している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> <p>排泄チェック表にて排泄パターンの把握に努め、気持ちよく排泄出来る様、支援している。夜間についても自分で排泄を希望される方は、ベットでの介助に頼らず出来るだけトイレにて排泄できるよう支援している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>職員は一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけなどの対応をしている。失禁時にはシャワーで洗ったり、温かいタオルで拭くなど清潔を保つようにしている。夜間は安眠を考慮しながら、利用者の状態に応じた方法で排泄介助を行っている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>センナ茶を全員飲用してもらい、便秘の改善につとめている。またオリゴ糖の飲用も勧め出来るだけ自然排便出来る様支援している。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> <p>声掛けをタイミングよく行い、人によっては頑なに拒否される方もおられるが、職員を変えたり少し時間をおいて再度声掛けし、気持ちよく入浴出来る様支援している。基本的に入浴は毎日入れる体勢を整えている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>ゆったりとした雰囲気の中で、職員と会話を楽しみながら入浴できるよう努めている。入浴を嫌がる利用者に対しては声かけを工夫したり、時間を変えるなどの対応をして、気持ちよく入浴してもらえよう取り組んでいる。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>夜間なかなか寝付けない方には、無理に寝てもらわずに、リビングでお茶を飲んでもらったり、和室にて休んでもらい休息してもらっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 職員全員が目的、副作用を理解はできてはいないが、薬の説明書に目を通し理解できるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの生活歴は、家族の面会時に出来るだけ聞くようにしており、新たな情報は気づきとして、オンリーワンメモや気づきノートに記載してケアプランに反映されている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 日常的な外出は出来ていないが、亡くなった家族の墓参りに行ったり、自宅に帰りたいと希望されている方には、家族の協力のもと、一次帰宅の支援を行なっている。また、食材の買い物に共に行っている。	
			(外部評価) 日常的に中庭に出での日光浴をしたり、散歩を兼ねて近くのコンビニや食材の買い出しにスーパーに行っている。気候のいい時期には、ホームのワゴン車でお花見やドライブにも出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 金銭を所持し、使うことの出来る方には、買い物時に一緒に出掛け好きなお菓子や、パンを買ったりしてもらっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望があれば、電話や手紙の支援は出来るが、希望される方がほとんどおらず、支援できていない。職員がもっと働きかけ支援していきたい。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節に合わせた飾り物をして、季節感の演出をしており、空気清浄機、加湿器の設置、24h換気扇にて換気行い、証明は混合色の証明にし刺激の少ない優しい証明にしている。	
			(外部評価) 利用者が心地良く過ごせるよう、テーブルや席の配置を工夫している。車いすを使用する利用者が動きやすいように、不要な物は置かないようにしている。加湿器や空気清浄機を導入し湿度や室温の調整もされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 一人で過ごす事を好まれる方には、レクの時など無理に参加してもらわないようにしており、仲の良い方同士は隣同士で座ってもらったりしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ご自身の馴染みの家具を持ち込んだり、大事な写真やアルバム、仏壇を持ってきている方もいる。中には、面会に来た家族に自身が希望を言われ、お気に入りの物品を配置している方もおられる。	
			(外部評価) 各居室には洗面台やクローゼット、ベッドが設置されている。寝具はリースを活用し清潔が確保されている。利用者の友人から頂いた手作り品を大切に飾ったり、写真や仏壇を置くなど、一人ひとりにあった落ち着くことのできる居室づくりがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 一人ひとりの能力に合わせ、ベットに柵を設けたり布団を好まれる方には、ベットをのけている。廊下やトイレには手すりを配置し、安全に移動できる設計になっている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890600145
法人名	株式会社ジェイコム
事業所名	グループホーム小松の里
所在地	愛媛県西条市小松町妙口甲1番地1
自己評価作成日	平成 22年 12月 1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年1月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・職員が明るく元気 ・季節の行事や毎月の外出行事 ・手作りおやつ充実 ・冬はこたつ
 ・書類の充実(オンリーワンメモ・気付きノート・センター方式の活用) ・利用者個々のアルバム作成
 ・畑を利用しての野菜作り ・利用者と一緒に買い物へ出掛ける ・2ヶ月に一度広報誌を発行
 ・出来るだけ誕生日当日に誕生日会を実施している ・緩下剤を使用せずセンナ茶を利用
 ・毎月家族へと送る状態報告の手紙 ・毎月のユニット会とサービス担当者会議(家族の参加を集う)
 ・2ヶ月に一度行う職員の勉強会 ・利用者の健康診断を毎年実施(誕生日健診としている)
 ・庭に4分の1の大きさのゲートボール場で大会を行い皆で利用している ・晴天時は庭で日光浴
 ・毎日のレクリエーションの実施 ・室温を日に3回確認、調整を行い、業務日誌へと記録

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営会社の理念を基にホーム独自の「心がけ」を、利用者支援の基本的な考え方としており、朝の申し送りの時に全員で復唱したり、名札にも記載いつでも振り返りができるように工夫している。地元の中生や地域住民との交流が盛んである。また、利用者や職員の友人がボランティアでコーラスや寸劇を披露してくれるなど、身近な人材が利用者の生活を共に支えてくれている。家族にも運営推進会議に出席してもらったり、茶話会を定期的に開催するなど家族との交流についても活発な取り組みがされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム 小松の里

(ユニット名) 上通り

記入者(管理者)

氏名 黒川 夕佳 (津島 美由紀)

評価完了日 平成 22 年 12 月 1 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 理念を職員の名札裏とフロアーに掲示してあり、すぐ目が通せるようになっている。 毎日、朝・夕の申し送り時に心がけを復唱し、スタッフ間で共有し合い業務に入れるよう取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 運営会社の理念を基にホーム独自の「心がけ」を全職員で作成し、利用者支援の基本的な考え方としている。また、実践するために、朝の申し送りの時に全員で復唱したり、名札にも記載しいつでも振り返りができるように工夫している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	<p>(自己評価) 2ヶ月に1度、施設周辺のゴミ拾いを実施。又、広報誌や行事の案内状を自宅ポストへと配布している。より多くの人と交流が持てることを大切に考えており、取り組んでいる。近隣の方と出会った際には元気良い挨拶を心がけている。</p> <p>(外部評価) 中学生との交流が盛んで、おやつ作りや散歩など一緒に行っている。利用者の知人によるコーラスや寸劇、職員の知人によるハンドマッサージなど、身近な人材に関わってもらい利用者の楽しみに繋げている。また、地域の文化祭に参加したり、秋祭りではだんじりが来てくれるなど地域の方との交流も広く行われている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 近隣の中学生との交流や運営推進会議、又、行事への案内や広報誌を配布することにより、認知症の方の理解や支援の方法を実際に観て触れ合ってもらえる機会を作っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 行事へと案内し、交流を持てる場を提供することもある。 会議は、2か月に1度実施。利用者や職員の現状報告や事業所内の取り組みについての報告をその都度行っている。その場での意見は、今後のサービス向上に活かせるよう話し合い、検討している。	
			(外部評価) 会議には利用者や家族の代表者、自治会長、地域包括支援センター職員などが参加し、議題に応じて消防署の職員が参加している。議事録は話し合われた内容がわかりやく記載されている。地域との拡がりを進めていくためにも効果的な会議となっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 月に1度、市の生活相談員の来所があり、入居者と交流を持たれている。運営推進会議への参加もある為、意見をもらう事が出来ている。	
			(外部評価) 課題解決のため市の担当者といつでも相談したり、情報交換をすることができる関係が構築されている。また、市が主催するケアサービス向上のための講演や研修会に参加し、情報収集や自己研鑽を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束は行っておらず、職員も理解している。玄関の施錠は夜間のみ行い、昼間はチャイムが鳴った際に職員が気付いて対応出来るような取り組み方を行っている。	
			(外部評価) 身体拘束の外部研修を受講したり、ホーム内での研修を継続して行い身体拘束とは何かを正しく理解している。声かけについても言葉での拘束にならないよう全職員で注意し合うなど、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修やホーム内で行う勉強会にて学ぶ機会がある。虐待を見過ごす事がないよう日頃から注意を払い、防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修やホーム内で行う勉強会にて学ぶ機会がある。ホームの利用者で成年後見制度を利用されている方がいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 締結・解約又は改定等の際は、十分な説明を行い、理解・納得を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ロビーに意見・要望箱を設置している。又、ホームページを作っており、書き込みがみられている。出た意見は検討・改善していけるように話し合っている。 (外部評価) 毎月20日に家族との交流を目的に茶話会を開催しており、その中で活発な意見交換が行われている。家族からの提案で、猪鍋会を実施するなど交流も盛んになっている。苦情の対応については、ユニット会などで話し合うなど速やかになされている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 運営に関しては職員からアンケートをとる事がある。月に1度行われているユニット会でスタッフ間の意見交換を行っている。管理者は出た意見や提案をその都度、聞く体制でいる。</p> <p>(外部評価) 管理者は日頃から職員に声をかけ、意見や要望を聞き取るように心がけている。職員も管理者に意見を出しやすく良好な関係が構築されている。また、資格取得のための時間や経費なども可能な限り調整し、意欲の向上や質の確保に繋げている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 職員個々の年間自己目標の設定と個人面談があり、各自が向上心を持って働けるよう取り組みがなされている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 職員個々の力量に合わせた研修へと参加する機会が設けられている。又、毎月、研修案内の配布があり、個人的に希望する研修へと参加する事も出来ている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 相互研修での訪問や他の研修の参加により、交流がみられている。学んだ事はホーム内で行う勉強会にて発表する場を設けており、スタッフ間で共有し合っている。他事業所で活用していたものを取り入れたものもある。(気づきノート)</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 入居前の面接で話をする機会がもてている。その際、困っていることや、要望等を聞き出せるよう努めている。本人の安心を確保するための関係作りを大切に思っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用前に家族と話す機会をもっており、困っている事や要望等に耳を傾け、関係づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) サービスを利用する前の段階で見極めることができるように考慮している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者と共に日々の生活を送る中で家事仕事であったり、レクリエーションの中でも、共に支え合ったり、教え合ったり出来るような支援や関係づくりに努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 毎月実施するサービス担当者会議や面会時に日常の様子等を報告し会話をする機会を持つようにしている。また、イベントへの案内を行い共有の時間を楽しんでもらえる機会を作っている。関係づくりに努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 出来る限り支援していきたいと思っている。知人の方が面会に来られる事はあるが、認知症の進行により理解が難しくなっていくと、継続した関係を保つのは難しくなっているのが現状である。 (外部評価) 馴染みの人や場所を把握するために、利用者の小さな要望を聞き逃すことなく取り組んでいる。外出行事を兼ねて老人ホームに入所中の姉に会いに行くなど、利用者の希望を叶えるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 仲の良い入居者同士で談話を楽しまれたり、お世話し合う場面がみられている。ウッドデッキや和室のこたつで休憩することが出来ている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居した後は職員個人の付き合いになっている。必要に応じて支援していきたいと思っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 個々の思いや暮らし方の希望や意向を日々の生活の中から探り、把握に努めている。本人と交流をもつ中で思いを組みとる努力もしている。職員間で共有し合い、本人本位で検討することもある。	
			(外部評価) 利用者との日々のふれあいを大切にし、表情や言葉の変化などから思いを汲み取っている。利用者の思いはできる限り叶えることができるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの日々の生活の経過を確認しながら状態の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 個々のペースで過ごせる様、本人の思いを十分に聞き出しながら日々過ごしてもらっている。ケアプランに本人の意向をあげる事で有する力が発揮出来る場を提供している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 毎月のユニット会にて参加家族と職員で介護計画の評価と見直しを行っている。本人の日々の様子等を考慮し、より良く暮らす為の計画となるよう意見を出し合い作成に努めている。 (外部評価) 茶話会や面会時などの機会をとらえて意向を聞き取ったり、意向を直筆で記入してもらうなど家族にしっかり関わってもらっている。計画や実施状況は、分かりやすい様式で記録されており、モニタリングの根拠となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 毎日のカルテやオンリーワンメモの記入により、個々の情報や気づきの把握に努め、職員間で共有し、介護計画の見直しに活かす事が出来るよう努めている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) その時々々のニーズに合った柔軟な支援が出来るよう努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 民生委員、ボランティア、警察、消防、教育機関といった様々な地域資源と協働しながら暮らしの支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 母体が病院である為、いつでも受診できる体制であ る。又、週に一度主治医の往診もある。 (外部評価) 利用前からのかかりつけ医の受診や、利用者や家族が 希望する医療機関での受診を支援している。週1回の 協力病院の往診や年1回の健康診断も実施しており、 結果は家族と共有している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 管理者が看護師である為、常に連絡を取り合い支援に 努める事が出来ている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 母体の病院とは常に情報交換を行っており、協働出来 ている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 終末期ケアは行っていないが、当事業所で生活が可能 な限りケアに努めている。その都度、家族様と話し合 いを行っている。 (外部評価) ホームでは医療行為ができないため、方針としては看 取りは行わないとしている。最終的には病院に入院と なったが、終末期に近い状態の事例を以前に1件経験 している。利用者の状態に応じて家族との話し合いを 密にしている。	利用者の安心で安定した生活を継続的に支え家族の意 向を尊重しつつ、ホームとしてできることできないこ とを盛り込んだ指針づくりや、現場で対応する職員の 資質向上のための研修、マニュアルづくりなどについ て検討がされることを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 研修や施設内の勉強会で学ぶ機会をもっている。又、定期的に全ての職員が救命救急講習を受講し、実践力を身に付けている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 半年に一度、防火避難訓練を実施している。年に一度は消防署の人の協力を得て立ち合いのもと行っている。実際に利用者の避難を行い、実践力を身につけている。地域の避難場所も確保出来ている。 (外部評価) 年2回の避難訓練を夜間などを想定して行い、1回は消防署の指導を得て実施している。運営推進会議の中でも話し合いを行ったり、実際に参加してもらいホームの取り組みを見てもらっている。また、小松地区の防災訓練にも参加している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 慣れ親しみができてくると、言葉使いが雑に感じる事もある。職員間で注意し合って対応していけるよう注意を払っている。 (外部評価) 利用者の尊厳を大切に声かけや態度で対応できるよう気を付けている。利用者一人ひとりの呼び方は、事前に確認している。また、トイレ誘導時の声かけや入室時のノックも配慮し、気になることについては職員間で注意し合い、よりよいケアが提供できるよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者に関わりをもつ際、問いかけるような声掛けを行うようにしている。本人が思いを言葉に表し、自己決定できるような支援ができるよう考慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりのペースを大事に支援している。こちらの働きかけでレクリエーションを行ったり、ケアプランにそったケア（家事仕事など）をし、過ごして頂いている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) その人らしいおしゃれや身だしなみが出来るよう支援に努めている。イベントがある時には、いつもと違った服を着て、お化粧をすると、喜んだ表情をみることが出来ている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 準備から片付け洗浄作業まで段階により一緒に作業している。職員も毎食一緒に食事を摂っている。献立は個々の利用者により工夫する事もある。	
			(外部評価) 利用者に満足してもらえるメニューになるように、各ユニットの栄養委員が献立を作成している。食器洗いや食材切り、下膳などを職員が見守りしながら、無理のないよう利用者にしてもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事・水分量の摂取チェック表がある。一人ひとりに合った飲み物を出したり、時間をおき少しづつ摂取してもらえるよう支援している。食べやすい様に食事の調理方法の工夫もしている。ミキサー食を準備する事もある。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、声掛けと見守り、必要に応じて介助にて支援している。義歯は毎晩ポリデント洗浄を実施している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表により、個々の排泄パターンの把握に努めている。定期的な誘導、本人の行動面の違いで示すサインに気付き、気持ちよく排泄出来るよう努めている。	
			(外部評価) 職員は一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけなどの対応をしている。失禁時にはシャワーで洗ったり、温かいタオルで拭くなど清潔を保つようにしている。夜間は安眠を考慮しながら、利用者の状態に応じた方法で排泄介助を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 個々に応じたセンナ茶の量と濃度で調整し、予防に努めている。便秘時には乳酸菌の飲食物を摂ってもらっている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴は毎日ある。個々の希望や体調により支援している。意思確認の難しい方は職員の判断にての支援にはなっている。	
			(外部評価) ゆったりとした雰囲気の中で、職員と会話を楽しみながら入浴できるよう努めている。入浴を嫌がる利用者に対しては声かけを工夫したり、時間を変えるなどの対応をして、気持ちよく入浴してもらえるよう取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 夜間不眠であったり、日中の傾眠が強いような時は休息できる場所へと誘導することもある。その日その時の利用者の状況や様子を観て、休息する時間を取り入れている。夜間なかなか寝付けないような時は添い寝することもある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個々の処方箋をファイルにしてあり、いつでも確認できるようにしてある。又、変更があった場合には、申し送りし、職員間で把握、状態の変化には十分注意したケアを行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 家事仕事や菊の鉢植え作り、読書や散歩、将棋など個々で得意としている事や趣味を取り入れた日々を過ごしていけるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 毎月、家族様の付き添いのもと入院している御主人の面会へと出掛ける方がいる。 ユニット全員で毎月外出する機会も設けている。季節の草花の観賞や博物館・工場見学や飲食店など様々な所へと出掛けている。	
			(外部評価) 日常的に中庭に出での日光浴をしたり、散歩を兼ねて近くのコンビニや食材の買い出しにスーパーに行っている。気候のいい時期には、ホームのワゴン車でお花見やドライブにも出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自分で管理出来る人には、買い物を楽しんでもらっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望みられた際、やりとり出来る様支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 24時間換気、加湿器の使用、定期的に室温チェックをしている。リビングに季節を感じることができるよう装飾品、カレンダーを工夫して作成している。	
			(外部評価) 利用者が心地良く過ごせるよう、テーブルや席の配置を工夫している。車いすを使用する利用者が動きやすいように、不要な物は置かないようにしている。加湿器や空気清浄機を導入し湿度や室温の調整もされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングや和室、庭やウッドデッキのベンチにて自由に過ごせる様、配慮している。仲の良い利用者同士で談話を楽しまれている様子を見ることもある。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 本人が使い慣れた家具や装飾品（写真）を持ち込まれている方もいる。また本人が心地良く過ごせる様に好みの物を持参して頂くこともある。	
			(外部評価) 各居室には洗面台やクローゼット、ベッドが設置されている。寝具はリースを活用し清潔が確保されている。利用者の友人から頂いた手作り品を大切に飾ったり、写真や仏壇を置くなど、一人ひとりにあった落ち着くことのできる居室づくりがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 居室の入り口に名前と写真を載せた色紙とトイレには目印の表示がしてある。又、台所や洗面所は使いやすい高さで建物内は手すりの設置や段差がないような造りになっており、十分な配慮と工夫がされてある。	